

夏だ！海だ！いや暑くね？本を読もう！！！！

特大号

～今月の名言～

意識しなくても、
誰もが、どこかで、他人を殺している。
押しくら饅頭をして誰が押し出されるのか……。

『スカイクロラ』P.246 by 森博嗣

夏休みに時間をかけて読めるような長編小説を、夏をテーマに選んでみました

ホラー

『夜は一緒に散歩しよ』 黒 史郎

正統派のホラー小説です。この物語は題名通り、とある幼い娘が夜の散歩に執心するようになるのですが…。とにかく、この小説の怖さは凄いと思います。

『親指さがし』 山田悠介

ある少女の一声で全てが狂った。「親指さがしやろう」。少女の疾走とある奇妙な噂の関連性がだんだん明らかになっていくハラハラドキドキのホラー小説です。

『王様ゲーム』 金沢伸明

ある日、王様からクラスメイトに命令の書かれたメールが届く。そこから狂気のゲームが始まった。命令の失敗は死。参加者の運命は？

スポーツ

『心を整える。』 長谷部誠

メンタル面について長谷部選手が書いた本です。自分の心を整理して新たな自分を見つけることのできる、心の支えとなる本です。自分のことを一度考え直す機会になるはず！

『武士道セブンティーン』 誉田哲也

これは剣道というスポーツを扱った物語で、三冊の続編の二冊目にあたります。剣道で友になった二人が、この二冊目では違う地に行きます。二人が常にお互いのことを考える青春の物語です。

『2.43—清陰高校男子バレー部』 壁井ユカコ

オムニバス形式の青春スポーツ小説！読んでいてとても清々しく感じます。題名の2.43の意味とは…？

ファンタジー

『十五少年漂流記』

ジュール・ヴェルヌ
「これぞ冒険物！！」というスリルがあって面白いです！

『ハリー・ポッター・シリーズ』

J・K・ローリング
最近スピンオフが出たことで話題の、不屈の名作！ハリーと仲間達の絆と成長の物語。

『テンペスト』

ウィリアム・シェイクスピア
弟の策により島流しにされたミラノ大公、プロスペローとその娘。プロスペローは弟たち一行をおびきよせナポリ王への復帰を目指す。魔法や精霊などのファンタジー要素、次々と起こる新展開が面白い。「ああ、素晴らしい新世界、こういう人たちが住んでいるの！」

『獣の奏者』

上橋菜穂子
ファンタジーの世界を舞台にした少女エリンの冒険と成長の物語。

2016年本屋大賞

第1位

『羊と鋼の森』 宮下奈都（文藝春秋）

『喜びの歌』『終わらない歌』の宮下奈都さんの作品。
題名はピアノのことを表しています。言葉では伝えきれないことを音であらわせるようになりたい。華やかではないが、ピアニストが活躍するために欠かせない調律師、主人公がそんな存在に出会い、心惹かれプロとして人として成長していく物語。

第2位

『君の臓腑をたべたい』 住野よる（双葉社）

主人公の僕はある日クラスメイトの山内桜良の日記を拾う。興味本位で見ると、そこには山内桜良が臓腑の病気で命が短いことが書かれていた。秘密を知った僕と、少ない残り時間を生きる山内桜良の切ない青春の物語。
最後まで読んだとき、あなたはタイトルの意味を知って涙する。

第3位

『世界の果てのこどもたち』 中脇初枝（講談社）

戦時中、高知県から親に連れられて満州にやってきた珠子。そこで朝鮮人の美子(ミジャ)と、恵まれた家庭で育った茉莉と出会う。三人はあることをきっかけに友情で結ばれる。しかし終戦が訪れ、三人は別の人生を歩むことになった。

第4位 『永い言い訳』 西川美和（文藝春秋）

第5位 『朝が来る』 辻村深月（文藝春秋）

第6位 『王とサーカス』 米澤穂信（東京創元社）

第7位 『戦場のコックたち』 深緑野分（東京創元社）

第8位 『流』 東山彰良（講談社）

第9位 『教団X』 中村文則（集英社）

第10位 『火花』 又吉直樹（文藝春秋）

（編集後記）

夏休みとなりましたが、私はあまり外が好きではありません。今回図書便りに載せた本を全て読みつくるのが私の今年の目標です。がんばります！！！！ 3年 S

二年になって最初の仕事で、慣れも出てきたかなと思います。この調子で今年も頑張りたいです。

2年 I

今回の図書便りは二年生が中心になって打ち込みなどの仕事を進めてくれました。まったくのワード音痴の僕には作れません。機械使えるっていいなあ…。 3年 H